

## ◆特集 情報収集・活用術◆

## 情報の収集方法と活用

大畑 雅彦

## I. はじめに

現代社会はIT産業、真っ盛りである。実際、大企業ではIT部が新設され、将来的な展望に立った情報システム構築やその運用、商品開発が行われている。

我々の医療業界に目を転じて、やはり情報ネットワーク技術の発展の目覚ましさを実感する。今後、医療のIT化により情報収集、情報公開、さらに情報の共有化が益々進展するだろう。また最近、医療界に旋風を起こしたEBM (Evidence Based Medicine) も情報化により推進されるものであろう。エビデンスを情報によって作り出す観点の重要性や医療のIT化は、エビデンスの構築や標準化に今後益々役立つものになるだろう。

今回、私に与えられたテーマは、『私の情報活用法』であるが、情報の収集法とその活用法を中心に述べてみたい。特に情報の仕入れ方は、人それぞれに異なるだろうが、私流を紹介する。

## II. 情報収集法

## 1. インターネットを用いた文献検索法

医学中央雑誌：医学中央雑誌インターネットサービス『医中誌Web』はMy Medipro (so-net) を通して個人的に入会している。後述のPubMedによる英文検索と合わせて、自宅での文献検索の効率化が図れる。何よりも思い付

いたときに検索が可能であることは、私の仕事のスタイルにおいて極めて重要である。情報の提供は、タイムリーでなければ意味がない。またパソコンがあれば、場所を問わないこともメリットである。以前は、図書館の2台のPC (MacはMEDLINEを、Winは医学中央雑誌) のCD-ROMより検索し、検索結果をプリントアウトまたはFDにsaveし、自宅で加工し使用したものである。医師も同様であろうが、我々検査技師も忙しい日常検査の合間に、図書館に出向き文献検索をする事は、相当の負荷でもあった(台数の問題もあり、必ずしも空いているとは限らない)。自宅でのインターネットによる文献検索は、これらの問題点を全て解消した。PubMedと異なり、医中誌Webは個人的には費用が生じるが、使用頻度等の費用対効果比を考慮すれば安価でもある。

PubMed：詳しい説明は不要であろうが、米国国立医学図書館(NLM)が作成して、インターネット上で無料で公開しているMEDLINEデータベースである。最近では二次情報から一次情報の入手まで可能なOpen Linksもある。PubMedをさらに活用するには、MeSH (Medical Subject Headings) の階層構造を理解し、適切なキーワードでヒットさせる手段を習得するのも上手な検索術の近道である。私は、MeSHのClinical Queriesを使ってエビデンスの高い論文を探すのに利用している。限られた時間内に効率良く、しかも目的を絞って検索するときにはとても便利な機能である。

オンラインで読める医学ジャーナル：毎週金

OHATA Masahiko

静岡赤十字病院 検査部

m-ooohata@qa2.so-net.or.jp

曜日に新しい号を Web に掲載している The New England Journal of Medicine は、南江堂洋書部ホームページ上で日本語 Abstract を紹介している。和訳の勉強に、また最新情報の収集にも大変役立つ。他に The Lancet は毎週木曜日に掲載される。これらのデータは、自分の PC の HD に保存して管理する事が出来る。

メーリングリスト：電子メールの送信、受信機能を応用し、ある話題に関して登録者全員がタイムラグを感じることなく、情報交換や議論、討論できるシステムである。メーリングリストでは、ある特定の宛先にメールを送るとそのメールは登録者全員に配送される。送信されたメールに返信をすればそのメールもまた登録者全員に送られるので、複数同士でのメールのやり取りが簡単に実現できる。よって徹底した幅広い情報交換や意見交換が可能となる。

その他：医学的な検索以外には、一般的な検索エンジンを用いる。Yahoo! を代表とするディレクトリ型検索エンジンやロボット型の goo などがある。双方の弱点を補い合うために、今日では双方の検索エンジンの融合が進められている。実際にディレクトリ型検索エンジンの Yahoo! JAPAN では、ロボット型の goo と提携し、検索結果がゼロになったときには、自動的に同じキーワードで goo で検索した結果が表示されるようになっている。

情報の新鮮さに注目するなら更新日付で絞り込める infoseek が、より多くの情報を探したいときは goo を使用すると良いだろう。

Yahoo! JAPAN	<a href="http://www.yahoo.co.jp/">http://www.yahoo.co.jp/</a>
goo	<a href="http://www.goo.ne.jp/">http://www.goo.ne.jp/</a>
Infoseek	<a href="http://www.infoseek.co.jp/">http://www.infoseek.co.jp/</a>

## 2. 直接的にヒトを通した情報収集

頼れる人間の輪（和）：学会等で知り合いになった医師や研究仲間は、最も身近な情報源になる。学会や研究会での懇親会の席は人脈を広げるよい機会でもあり、積極的に参加する。ちょっと図々しいくらいが効果の点からはベストかもしれない。フロアーでの質問も、生の声が

聞ける。本当の意味での情報は、ペールを剥がした生の声であり、これを見抜く力が重要である。常にメモ用紙を握り締め、よい情報を聞きだそうとする貪欲さも、また大切である。

## III. 情報の整理術

情報の整理というと、数年前のベストセラー「超」整理法（野口悠紀雄，中公新書）を思い出す。“封筒を準備して整理してみるか”という気持ちになってしまうが、文献の整理も含めて情報の整理はなかなか難しい。私は File Maker Pro を用いて、文献の整理、個々の症例や希少例の data base などに利用しているが、まだまだ模索しているといった状態である。他に紙の資料は KOKUYO フ-950N : A4 版の CASE FILE を用いて、学会や原稿執筆が終了した段階で“どさっ”と収納している。中身を大まかに背や腹の部分にメモしておけば、十分に把握ができる。

## IV. 病院図書館の上手な使い方

当院では、文献検索用の PC(2 台) やスライド作成用 PC (2 台) が図書館に設置されている。よって論文作成のための資料集めや学会のスライド作成を効果的に行うには、図書館を上手に利用する事を考える。PubMed での検索で一次情報へと Open Links によりアクセスできる専門ジャーナルはまだ数少なく、フルテキスト入手には図書館を利用せねばならない現状もある（まだまだ、一般のサービスは料金が高く、病院図書館経由で取り寄せる方が安価である）。

情報提供者としての司書の取り組みも重要である。当院での“Library News”は、タイムリーな内容を盛り込みながら、適切なニュースを各職場に提供している。私の勤務する検査部も同様であるが、院内での存在感と存在意義をアピールする事は重要であり、今後も忘れてはならない姿勢である。院内での図書館の位置づけを常に意識している姿には、共感を覚える。